JSW 日本製鋼所

FY2024 / 2025年3月期 第2四半期　決算説明資料

2024年11月14日

株式会社日本製鋼所
代表取締役社長　松尾 敏夫

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

【ご注意】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

INDEX

PART Ⅰ
2025年3月期 第２四半期実績

05 受注高・売上高・利益の状況
06 営業利益増減要因
07 セグメント別
08 産業機械事業
09 素形材・エンジニアリング事業

PART Ⅱ
2025年3月期 通期計画

11 受注高・売上高・利益の計画
12 営業利益増減要因
13 セグメント別
14 産業機械事業
15 素形材・エンジニアリング事業
16 受注残高の推移と予想
17 設備投資・減価償却費、キャッシュ・フロー、財務体質、研究開発費の状況
18 JGP2028の配当方針と実績

PART Ⅲ
事業概況

20 産業機械事業 主要製品の今期受注概況
21 素形材エンジニアリング事業 主要製品の今期受注概況
22 フィルム・シート製造装置の状況
23 樹脂製造機械と設備増強の状況
24 成形機 – 市況展望と今期業績の見通し
25 電力・原子力製品の状況

参考資料：

事業セグメントの構成と主要製品 / 売上高・営業利益・純利益の推移 / 主要な財産状況・キャッシュ・フローの推移 / Purposeを起点とする企業理念体系”Our Philosophy”

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

[PART I]

2025年3月期 第２四半期実績

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

前年同期比で受注高･売上高は減少も、増益

（単位：億円）

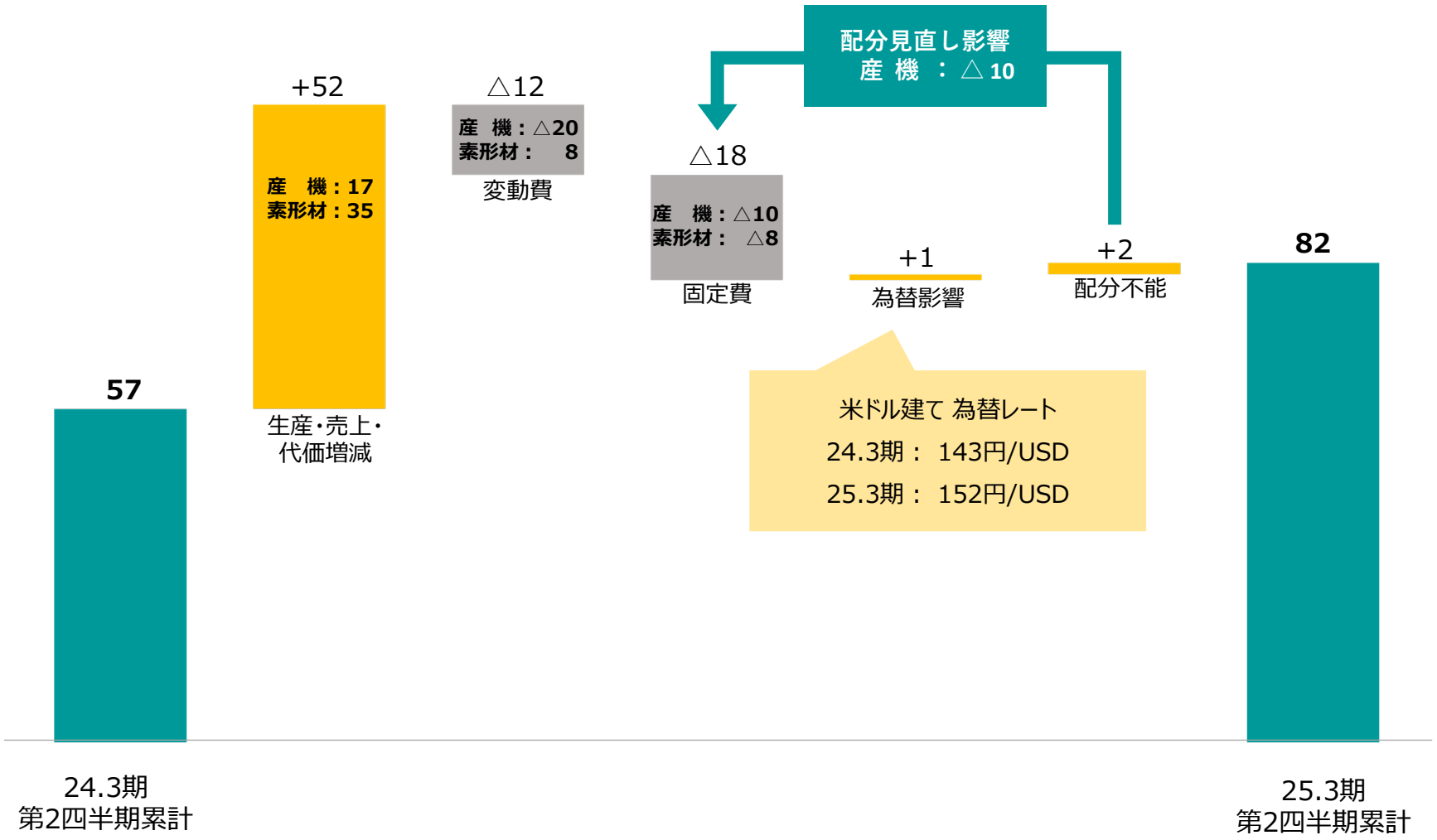
	24.3期 第2四半期累計 (A)	**25.3期 第2四半期累計 (B)**	前年同期比 (B) - (A)
受注高	1,659	**1,410**	△ 249
売上高	1,101	**1,082**	△ 19
営業利益 （率）	57 5.2%	**82 7.7%**	25
経常利益	67	**86**	19
純利益	47	**60**	13
1株当たり 純利益（円）	64.73	**81.65**	16.92
1株当たり 配当金（円）	29.0	**38.0**	9.0

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

2025年3月期 第2四半期： 営業利益増減要因

生産増と代価改善により、前年同期比25億円増益

（単位：億円）



© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

産業機械事業は受注高･売上高は前年同期比減少、営業利益は費用配分見直しが影響
素形材･エンジニアリング事業は受注反動減も好調、売上高･営業利益は伸長

産業機械事業

（単位：億円）

	24.3期 第2四半期 累計 (A)	**25.3期 第2四半期 累計 (B)**	前年同期比 (B)-(A)
受注高	1,304	**1,173**	△ 131
売上高	925	**861**	△ 64
営業利益	82	**69**	△ 13
(率)	8.9%	**8.0%**	

素形材・エンジニアリング事業

（単位：億円）

	24.3期 第2四半期 累計 (A)	**25.3期 第2四半期 累計 (B)**	前年同期比 (B)-(A)
受注高	344	**226**	△ 118
売上高	166	**210**	44
営業利益	5	**41**	36
(率)	3.3%	**19.5%**	

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

樹脂製造･加工機械にてEV向けの停滞を受け、受注高･売上高 共に前年同期比減少

売上高･営業利益

（単位：億円）

	24.3期 第2四半期 累計 (A)	**25.3期 第2四半期 累計 (B)**	前年同期比 (B)-(A)
樹脂製造･加工機械	445	**295**	△ 150
成形機	288	**307**	19
防衛関連機器	98	**113**	15
その他	93	**144**	51
合計	925	**861**	△ 64
営業利益	82	**69**	△ 13

受注高

（単位：億円）

24.3期 第2四半期 累計 (C)	**25.3期 第2四半期 累計 (D)**	前年同期比 (D)-(C)
568	**374**	△ 194
336	**340**	4
250	**318**	68
150	**140**	△ 10
1,304	**1,173**	△ 131

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

売上高は、素形材製品が牽引し、前年同期比で伸長
受注高は、素形材が原子力製品の前期大型受注からの反動減も好調を維持

売上高･営業利益

（単位：億円）

	24.3期 第2四半期 累計 (A)	**25.3期 第2四半期 累計 (B)**	前年同期比 (B)-(A)
素形材製品	130	**169**	39
エンジニアリング他	36	**41**	5
合計	166	**210**	44
営業利益	5	**41**	36

受注高

（単位：億円）

24.3期 第2四半期 累計 (C)	**25.3期 第2四半期 累計 (D)**	前年同期比 (D)-(C)
300	**188**	△ 112
44	**38**	△ 6
344	**226**	△ 118

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

[PART Ⅱ]

2025年3月期　通期計画

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

受注高を下方修正、売上高･営業利益は当初予想を上回る見通し

（単位：億円）

	24.3期 実績 (A)	25.3期 当初予想 (B)	**25.3期 修正予想 (C)**	前期比 (C)-(A)	当初予想比 (C)-(B)
受注高	3,349	3,750	**3,650**	301	△ 100
売上高	2,525	2,650	**2,700**	175	50
営業利益 (率)	180 7.1%	200 7.5%	**220 8.1%**	40	20
経常利益	199	205	**225**	26	20
純利益	142	155	**160**	18	5
1株当たり純利益 (円)	194.02	210.61	**217.38**	23.36	6.77
1株当たり 配当金（円）	59.0	74.0	**76.0**	17.0	2.0

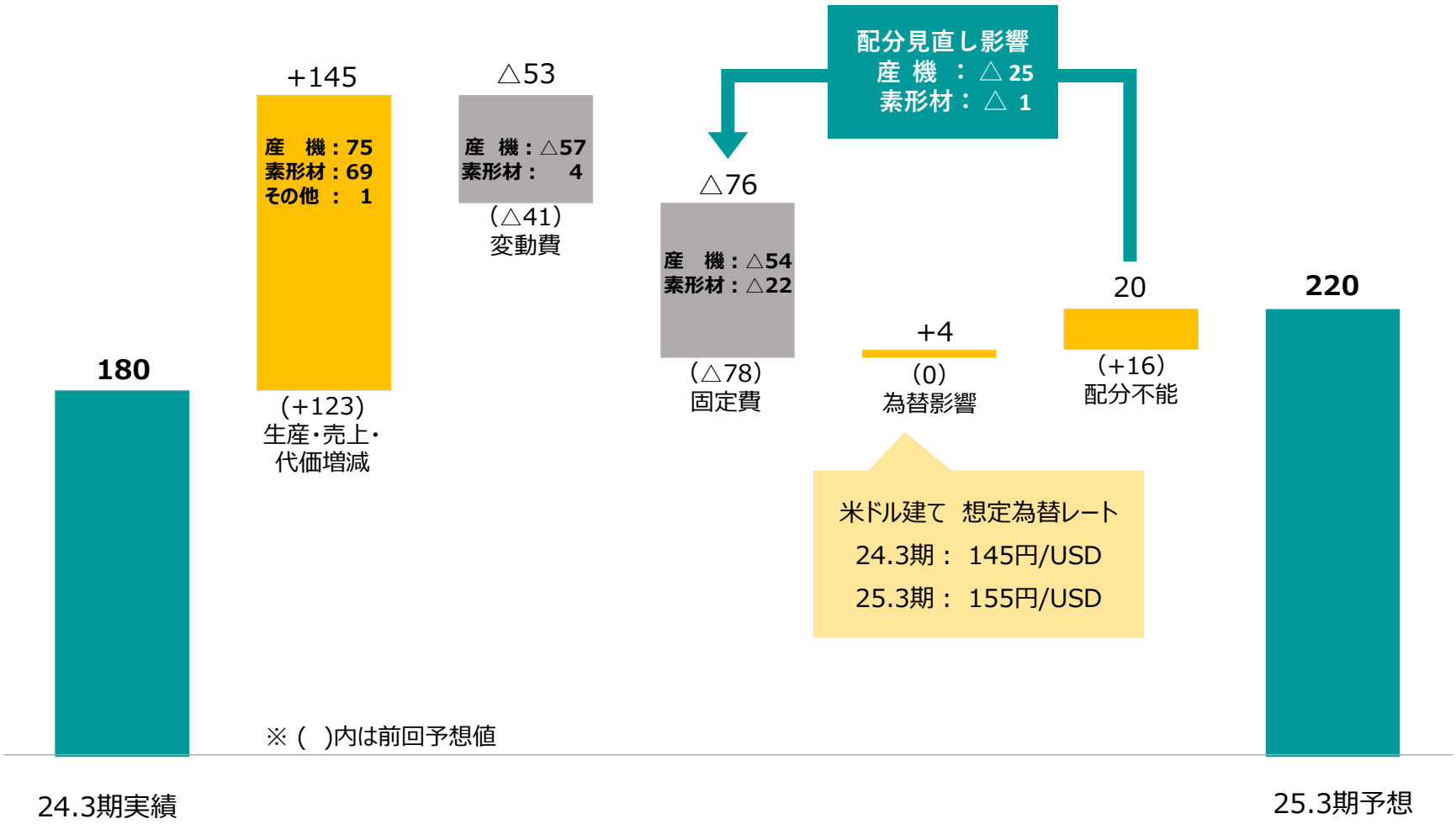
※ 今回、通期業績予想を修正しております。
本資料では、本年５月時点での予想を「当初予想」、11月時点での予想を「修正通期予想」と表示しております。

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

2025年3月期：営業利益増減要因

生産・売上増、代価改善により、前期比40億円の増益を見込む

（単位：億円）



© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

産業機械は、受注は当初予想を下回るが、売上高は上回る見通し
素形材は、当初予想に対し減収増益を見込む

産業機械事業

（単位：億円）

	24.3期 実績 (A)	25.3期 当初予想 (B)	**25.3期 修正予想 (C)**	前期比 (C)-(A)	当初予想比 (C)-(B)
受注高	2,774	3,220	**3,140**	366	△ 80
売上高	2,083	2,100	**2,185**	102	85
営業利益 (率)	204 9.8%	170 8.1%	**170 7.8%**	△ 34	0

素形材・エンジニアリング事業

（単位：億円）

	24.3期 実績 (A)	25.3期 当初予想 (B)	**25.3期 修正予想 (C)**	前期比 (C)-(A)	当初予想比 (C)-(B)
受注高	553	495	**480**	△ 73	△ 15
売上高	419	515	**485**	66	△ 30
営業利益 (率)	32 7.7%	69 13.4%	**85 17.5%**	53	16

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

樹脂製造･加工機械は、EV向けの停滞を受け受注･売上 共に、当初予想を下回る
成形機･防衛関連機器･その他は、受注･売上 共に、全て当初予想を上回ると予想

売上高･営業利益

（単位：億円）

	24.3期 実績 (A)	25.3期 当初予想 (B)	**25.3期 修正予想 (C)**	前期比 (C)-(A)	当初予想比 (C)-(B)
樹脂製造･加工機械	1,027	890	**870**	△ 157	△ 20
成形機	587	630	**710**	123	80
防衛関連機器	241	290	**315**	74	25
その他	228	290	**290**	62	0
合計	2,083	2,100	**2,185**	102	85
営業利益	204	170	**170**	△ 34	0

受注高

（単位：億円）

24.3期 実績 (D)	25.3期 当初予想 (E)	**25.3期 修正予想 (F)**	前期比 (F)-(D)	当初予想比 (F)-(E)
1,021	1,080	**880**	△ 141	△ 200
649	680	**745**	96	65
705	1,130	**1,145**	440	15
399	330	**370**	△ 29	40
2,774	3,220	**3,140**	366	△ 80

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

受注高は、素形材が電力・原子力製品が牽引し当初予想を上回る見込みも、エンジニアリング他が減少

売上高・営業利益

（単位：億円）

	24.3期 実績 (A)	25.3期 当初予想 (B)	**25.3期 修正予想 (C)**	前期比 (C)-(A)	当初予想比 (C)-(B)
素形材製品	330	422	**402**	72	△ 20
エンジニアリング他	89	93	**83**	△ 6	△ 10
合計	419	515	**485**	66	△ 30
営業利益	32	69	**85**	53	16

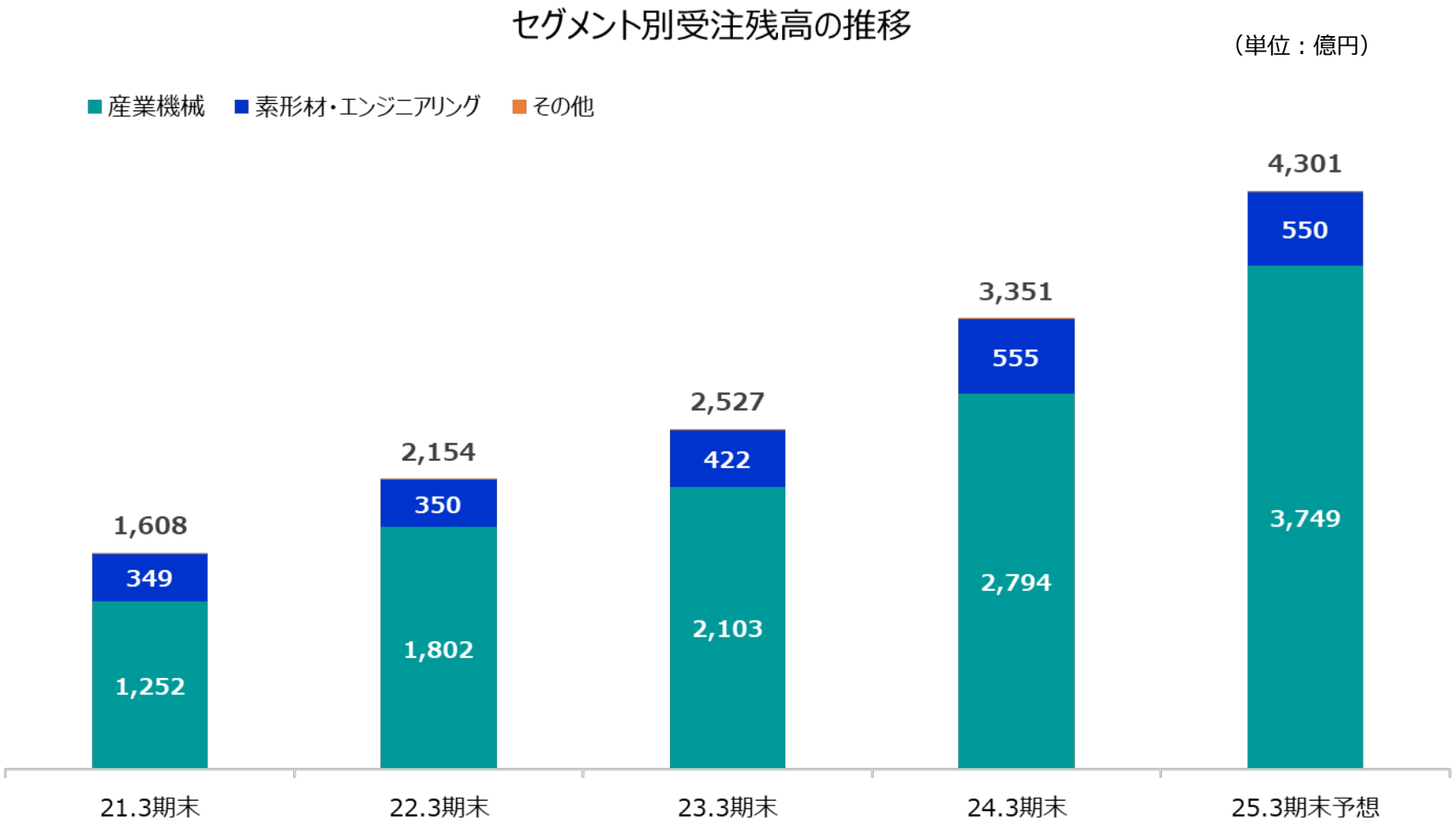
受注高

（単位：億円）

24.3期 実績 (D)	25.3期 当初予想 (E)	**25.3期 修正予想 (F)**	前期比 (F)-(D)	当初予想比 (F)-(E)
477	395	**420**	△ 57	25
76	100	**60**	△ 16	△ 40
553	495	**480**	△ 73	△ 15

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

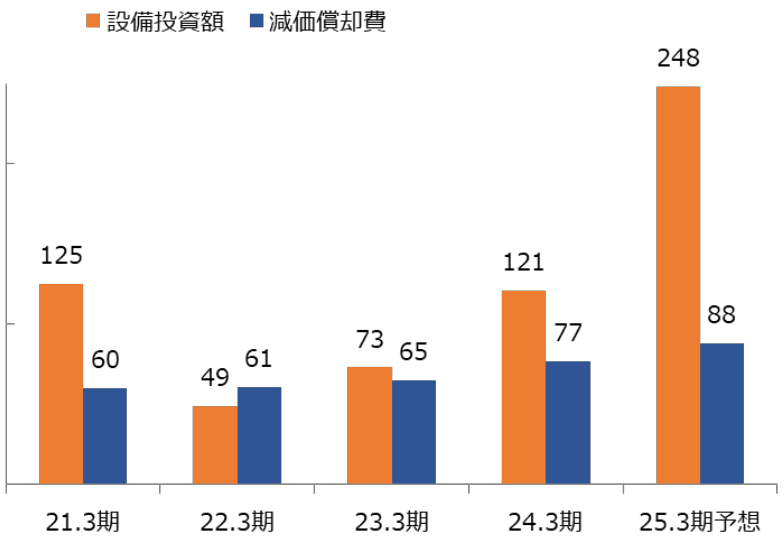
受注残高の推移と予想



© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

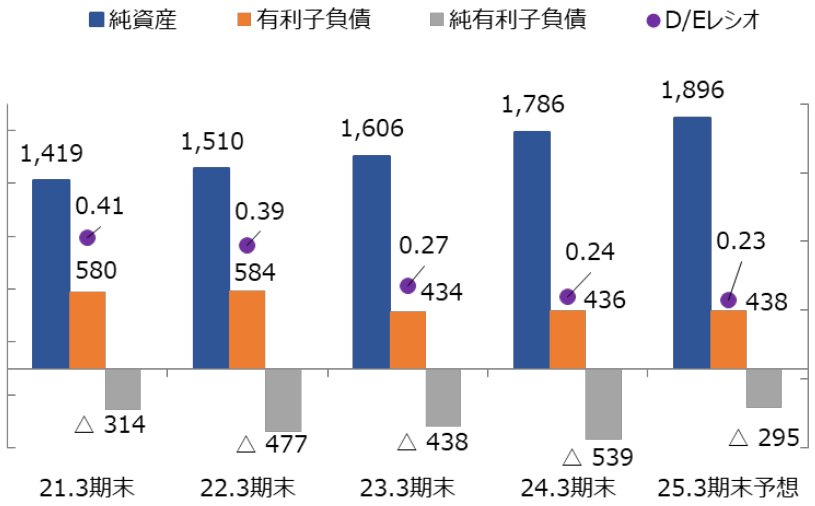
2025年3月期：設備投資・減価償却費、キャッシュ・フロー、財務体質、研究開発費の状況

設備投資・減価償却費の状況

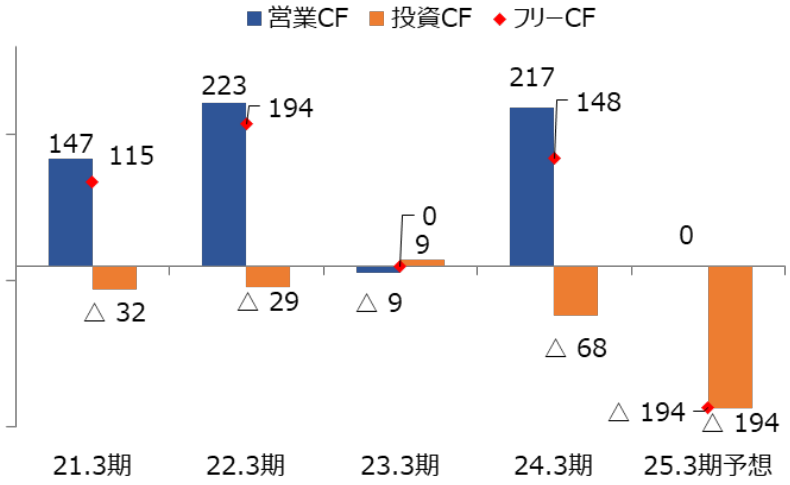


財務体質の状況

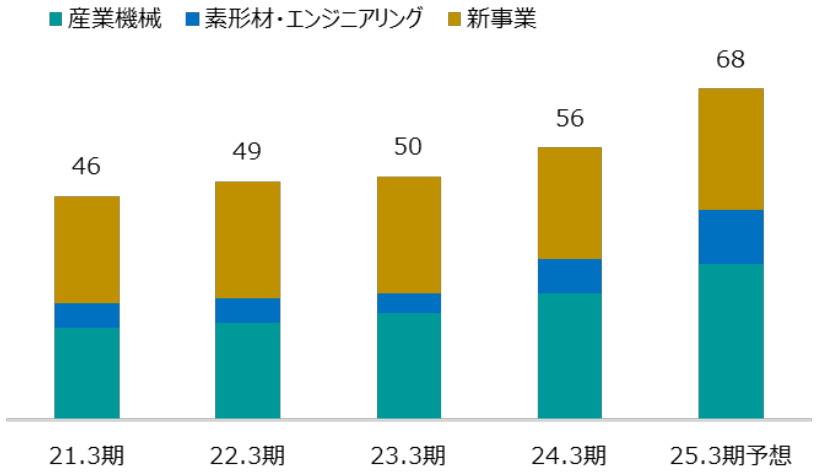
（単位：億円）



キャッシュ・フローの状況



研究開発費の状況

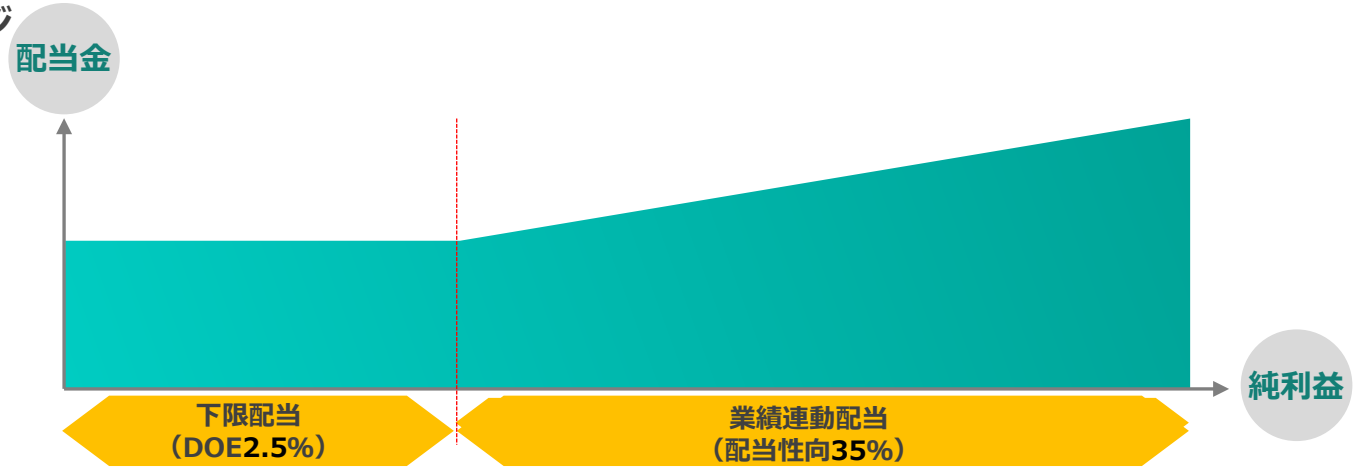


© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

中期経営計画JGP2028 期間中の配当方針

「連結配当性向 35% 以上」を目標とした上で、
「DOE（連結株主資本配当率）2.5% 」を下限に配当を実施。

■配当方針のイメージ



直近の配当実績･予想： 25.3期の年間配当は当初予想より２円増配の76円を予想。

	22.3期	23.3期	24.3期	25.3期			
				当初予想		修正予想	
				中間	年間	中間	年間
年間配当（円）	57.0	58.0	59.0	37.0	74.0	**38.0**	**76.0**
配当性向（連結）	30.1%	35.6%	30.4%	35.1%		**35.0%**	

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

[PART Ⅲ]

事業概況

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

産業機械事業 主要製品の今期受注概況

産業機械事業	景況感 （前期対比）	受注環境
フィルム・シート製造装置		● 足下でのEV需要鈍化の影響で自動車メーカー・バッテリーメーカーで投資計画見直しの動き
造粒機		● これまでの中国に、需要の増加する他地域での取り込みも加わる
二軸混練押出機		● 高機能エンジニアリングプラスチック需要が増加基調 ● 次世代樹脂開発、ケミカルリサイクルなど将来に向けた投資は増加
アフターサービス		● インド・中東等にてサービス網の強化・拡充しており、既存顧客のサービス需要を確実に取り込み
プラスチック成形機		● 市況底打ち、自動車のモデルチェンジに伴う設備投資需要の回復に期待 ● 欧州市場にて油圧から電動への切り替えの動きは継続
マグネシウム成形機		● 自動車の電動化による車体軽量化ニーズが高まり、マグネシウム部材採用の動きは継続
FPD装置		● ディスプレイパネル向けG8対応需要の取り込みに加え、パワー半導体製造用へのレーザアニール装置の適用伸長に期待

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

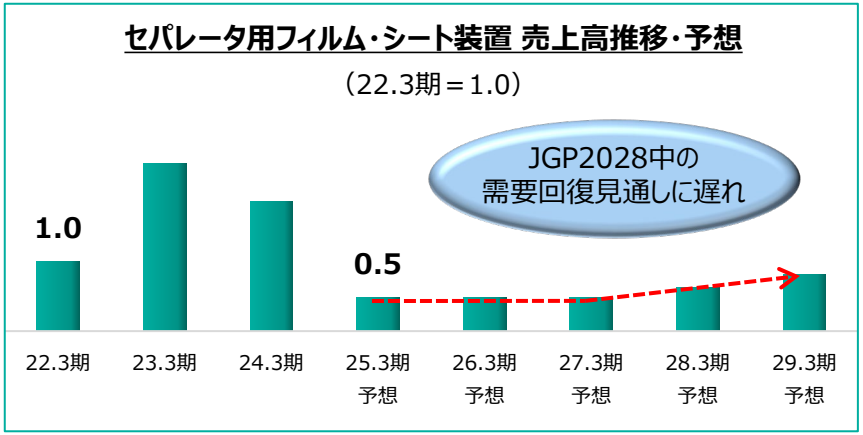
素形材・エンジニアリング事業 主要製品の今期受注概況

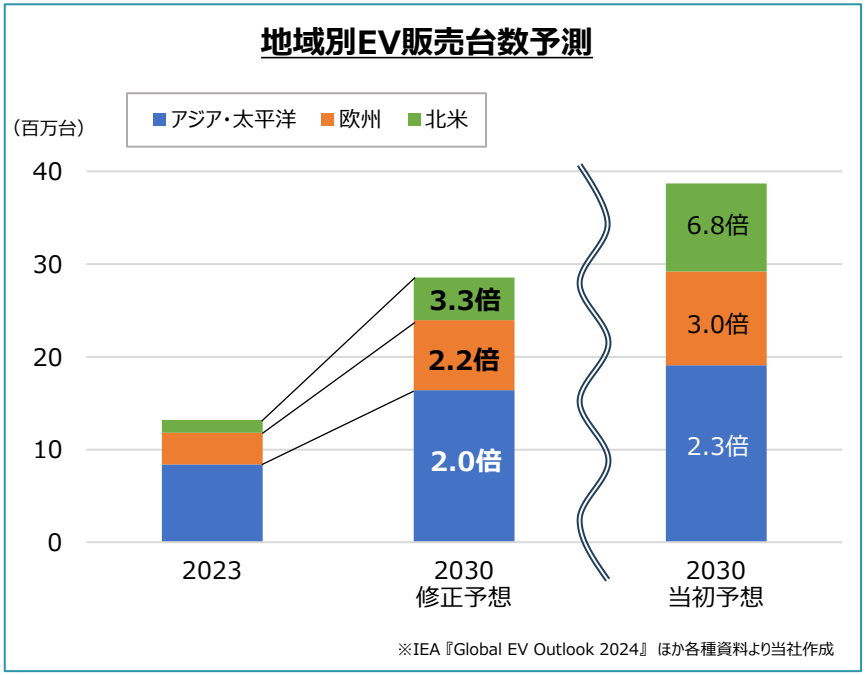
素形材・エンジニアリング事業	景況感（前期対比）	受注環境
素形材製品	☼	● 電力製品はガスタービン・コンバインドサイクル（GTCC）など高効率火力向けロータや原子力二次系のロータ取り換え需要が堅調 ● 原子力製品は欧州が牽引し堅調に推移 ● 洋上風車向け大型鍛鋼品の好調な需要も継続
エンジニアリング他	☼	● 外部検査工事を積極的に受注しつつ、産業機械事業セグメントの増加する需要に対応

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

EV用バッテリー向け需要は中長期で増加を見込むも足下停滞、製品競争力強化と新規有望市場への拡販を継続

- 北米・欧州・中国では、足下でEV販売台数の伸びが鈍化、投資は調整局面入り。
- 中国では、景気減速・供給過剰に欧米の関税引き上げ等も加わり新規投資停滞。
- 北米では、域内で中国に頼らないサプライチェーン構築に向けた動きも、投資決定に遅れ。
- 欧州では景気後退と補助金政策見直しによりEV販売台数減少、完全電動化延期等でメーカーが生産計画を見直し。
- EVの中長期での成長基調は継続、インドでも販売増加の動き。フィルム各社は投資タイミング見極めの状態。





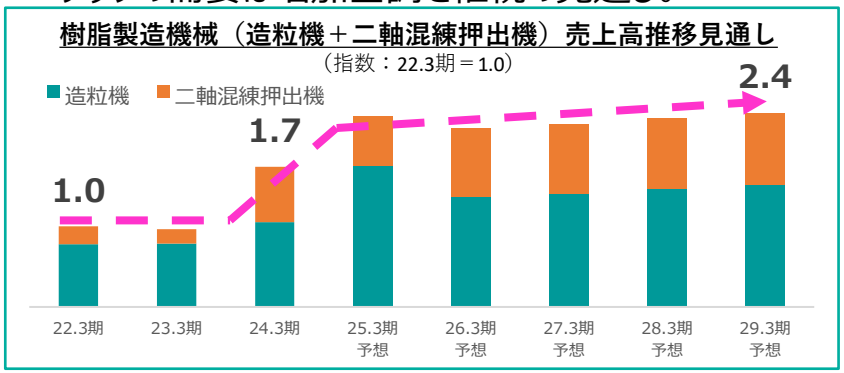
【当社対応】

- 高速・幅広化により既存顧客の生産性向上に貢献。
- 新規有望市場への拡販。
- 機能材・包材向けなど、セパレータ以外の用途でのフィルム・シート装置拡販・アフターサービス強化を進める。

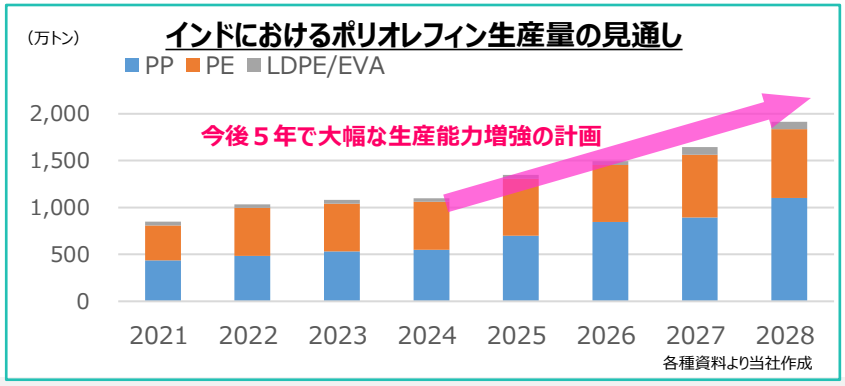
© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

市場は中国に加えてインド等が成長

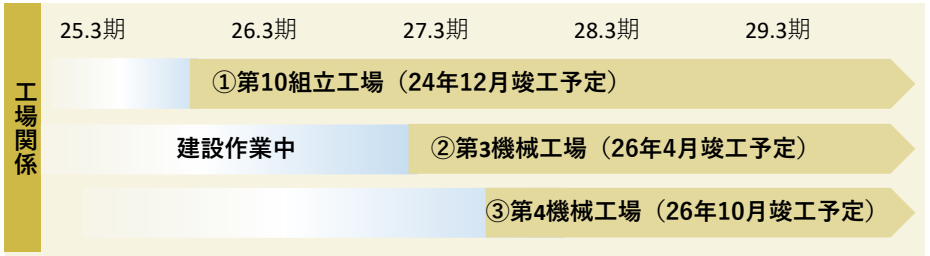
- 経済成長と人口増及び用途拡大とを背景にプラスチックの需要は増加基調を継続の見通し。

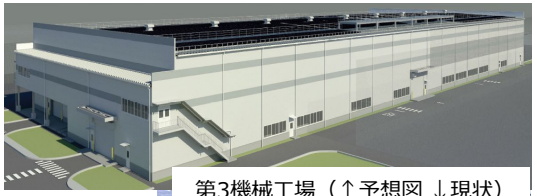


- 中国では、プラスチック原料の国産化に向けた設備投資が継続。
- インドなど新興国でも、人口増加と経済成長に伴いプラスチック需要が拡大、原料の国産化に向けた動きが見られる。



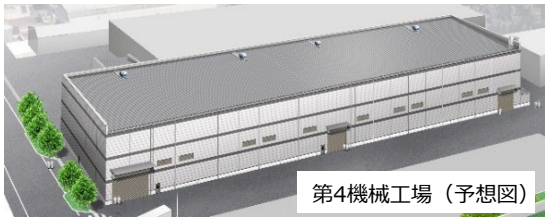
広島製作所における設備投資は順調に進捗





第3機械工場（↑予想図 ↓現状）

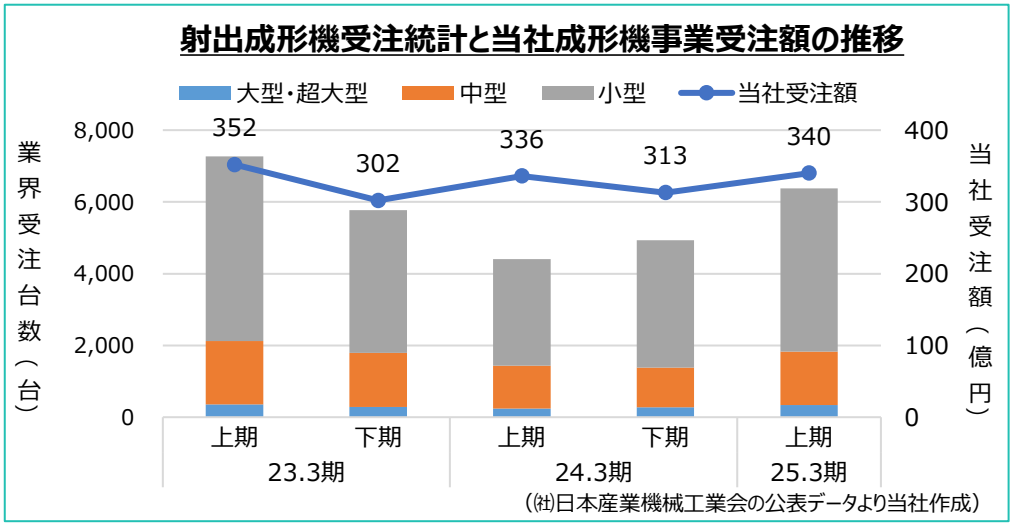
※ 仮称“新第2機械工場”を”第3機械工場”に改称

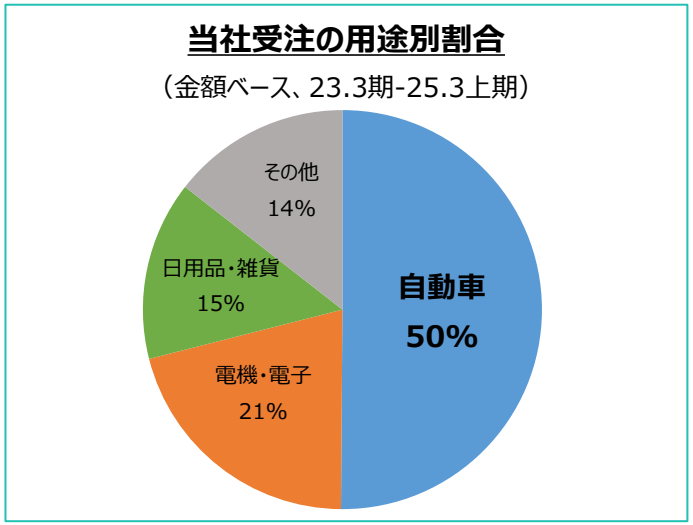


- 設備投資は順調に進捗、大型化する最新鋭機械の生産能力を向上。
- 自社での部品加工能力をさらに向上し、製品競争力を強化するとともに、収益力改善を図る。

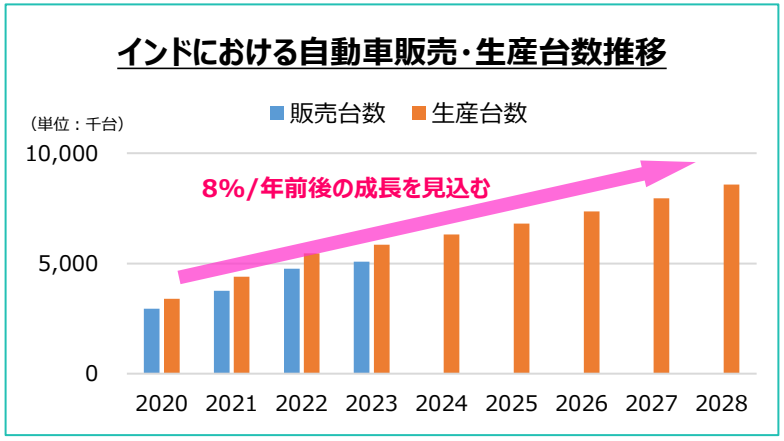
© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

市況は底打ち、欧州に加え東南アジア、インド等での拡販を図る





- 当社受注は中・大型機の需要を取り込み、比較的安定して推移してきた。
- 今後は自動車の生産回復に期待。日系自動車メーカーが低炭素化に向けHVなどモデルチェンジによる新型車需要、パーツメーカー各社も設備投資を具体化。
- 欧州景気は停滞しているが、環境対応・省エネ需要は高く引き合いが増加。当社現地法人の生産・販売体制を強化している。
- インド市場の経済成長・産業高度化に伴う伸長に期待。



© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

原子力製品の市場動向

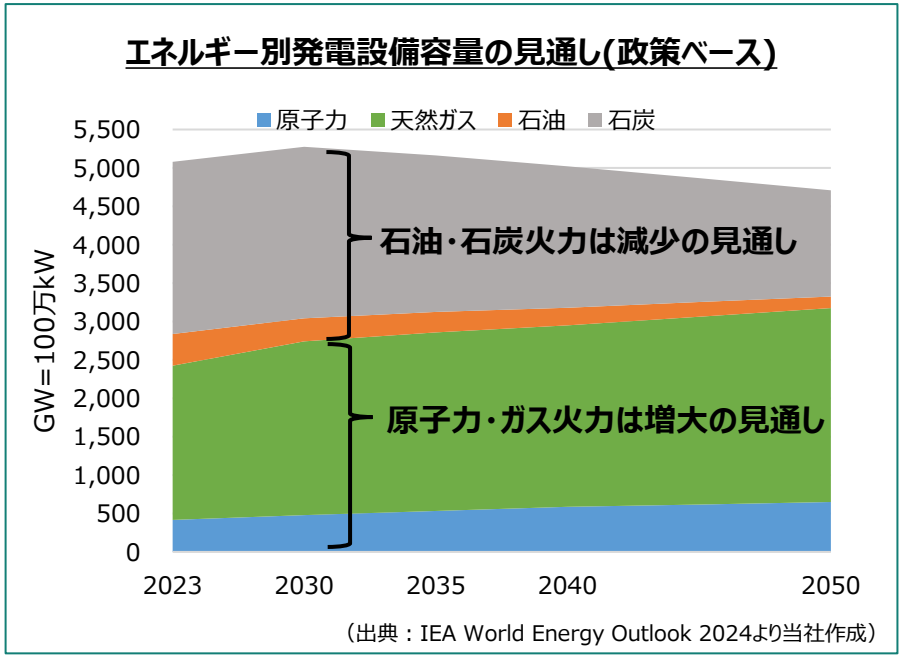
		各国の状況
日本		既設炉の再稼働促進と運転期間延長、次世代革新炉建設（建替）の具体化に向けた動きが継続。
欧州	英国	2050年までに最大24GWを新設する計画。 5月、政府は国有化したWylfaをHinkley Point、Sizewellと同規模の大規模原子力発電所用地とすることを発表。
欧州	フランス	EPR-2 x 6基を新設、2050年までにさらに8基を建設する計画。昨年受注分に続き、後続案件についての協議が進む。
欧州	その他	ポーランド：石炭依存から脱するべく、2033以降の運開に向けAP1000 x 3基を建設する計画。 ブルガリア：AP1000 x 2基の建設を計画。このほか、SMR等の建設も視野。
北米		米国では、既設炉の80年の運転許可取得が進む。 米国を中心に、SMRの建設が多数計画される。
アジア	中国	2025年までに70GWの原子力発電能力を整備する計画を背景に、新規建設が進捗。
アジア	韓国	既存炉の運転期間延長、2基の建設再開、 海外への原発輸出（30年までに10基）促進を目指す。

- 英・仏案件は引き続き順調、順次受注し製造に移行。
- 北米向けでは、当社として初めてSMR部材を受注。
- 原子力3倍化宣言を受け、世界的にサプライチェーンの強化が課題と認識される。

世界原子力協会2024年次大会にて、伸長する需要への当社対応を説明
(2024.09.05, London, UK)

電力製品（タービン・発電機部材)は堅調

- ガスタービン・コンバインドサイクル向けを含む、高効率火力発電用ロータシャフト需要は好調を継続。
- 既設原子力発電所の運転期間延長を背景に、蒸気タービン・発電機の取替需要が引き続き増加。
- 欧米を中心に伸長するデータセンタ向け電力需要への対応として、安定供給と低炭素とを両立する高効率火力・原子力発電投資は長期的に継続の見通し。



（出典：IEA World Energy Outlook 2024より当社作成）

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

参考資料

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

事業セグメントの構成と主要製品

事業セグメント	産業機械事業	素形材・エンジニアリング事業	その他事業
事業組織	樹脂機械事業部、成形機事業部、産業機械事業部、特機本部	日本製鋼所M&E	新事業推進本部

生産拠点

広島

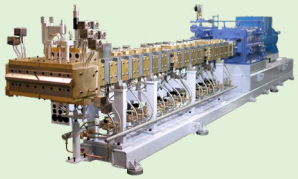
横浜

名古屋

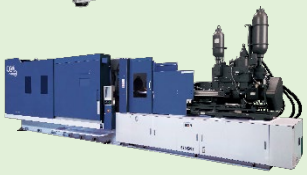
室蘭

製品

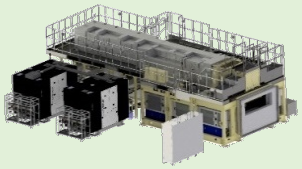
【樹脂製造・加工機械】
- 造粒機
- フィルム・シート製造装置
- 二軸混練押出機
- アフターサービス



【成形機】
- プラスチック射出成形機
- マグネシウム射出成形機
- 中空成形機
- アフターサービス



【その他産業機械】
- エキシマレーザアニール(ELA)装置
- 防衛関連機器
- 鉄道製品
- ホットプレス
- ラミネータ
- 成膜装置
- アフターサービス



【素形材製品】
- 原子炉圧力容器部材（シエル、ヘッド他）
- 蒸気発生器部材
- ローター軸
- タービンケーシング
- 金型用鋼
- 製鉄用圧延ロール

【クラッド製品】
- クラッド鋼板

【エンジニアリングサービス】
- プラント・インフラ鋼構造物及び工事
- 非破壊検査・分析検査サービス
- 水素蓄圧機・水素吸蔵合金タンク

【新事業】
- フォトニクス
- 複合材料
- 金属材料

市場

石油化学 / 産業機械 / 自動車 / IT / 防衛 / 電力・鉄鋼 / 石油・天然ガス / 自然エネルギー / 新事業

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

売上高・営業利益・純利益の推移

（単位：億円）

	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期	24.3期
売上高	2,201	2,175	1,980	2,137	2,387	2,525
産業機械事業	1,736	1,714	1,563	1,711	2,029	2,083
樹脂製造・加工機械	525	613	588	621	922	1,027
成形機	727	653	545	653	658	587
防衛関連機器	-	-	-	-	238	241
その他	204	448	430	437	211	228
FPD装置	164	-	-	-	-	-
連結会社	116	-	-	-	-	-
素形材・エンジニアリング事業	412	428	385	400	339	419
素形材製品（鋳鍛鋼品）	-	196	199	254	249	330
電力・原子力	125	-	-	-	-	-
クラッド鋼板・鋼管	130	128	105	60	-	-
エンジニアリング他	-	104	81	86	90	89
その他	95	-	-	-	-	-
連結会社	62	-	-	-	-	-
その他事業	52	32	31	26	18	22
営業利益	242	187	102	154	138	180
産業機械事業	235	192	139	177	189	204
素形材・エンジニアリング事業	26	27	18	13	△ 8	32
その他事業	3	△ 4	0	0	△ 4	0
純利益	199	93	68	139	119	142

※21.3期より、集計区分を変更（20.3期より組み替えて表示しています）。
- 「産業機械事業」の「連結会社」としていた３社(ジーエムエンジニアリング社、ニチユマシナリー社、SM Platek社)を「樹脂製造・加工機械」に変更。
- 「産業機械事業」の「FPD装置」「その他」「連結会社」を「その他」に変更。
- 「素形材・エンジニアリング事業」の「鋳鍛鋼品」のうちの石油精製用圧力容器と、「その他事業」のうちの風力保守業務を、「素形材・エンジニアリング事業」の「エンジニアリング他」に変更。

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

主要な財産状況・キャッシュフロー等の推移

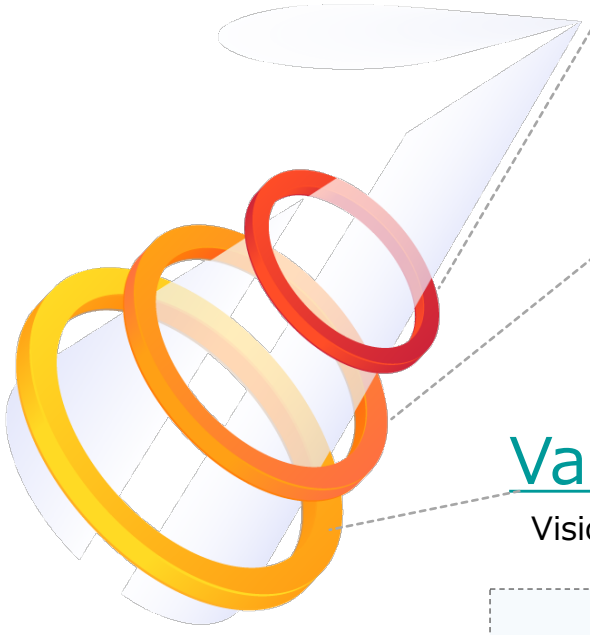
（単位：億円）

	19.3期	20.3期	21.3期	22.3期	23.3期	24.3期
総資産	3,055	2,971	3,162	3,397	3,483	3,667
純資産	1,298	1,324	1,419	1,510	1,606	1,786
1株あたり純資産額（円）	1,746.91	1,778.94	1,908.76	2,031.29	2,162.18	2,404.83
自己資本比率（%）	42.0	44.0	44.4	44.0	45.7	48.3
自己資本利益率（%）	16.3	7.2	5.1	9.6	7.8	8.5
営業活動によるキャッシュフロー	11	189	147	223	△9	217
投資活動によるキャッシュフロー	△13	△131	△32	△29	9	△68
財務活動によるキャッシュフロー	△37	△61	27	△28	△201	△48
現金及び現金同等物の期末残高	738	744	887	1,057	864	969

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

Purposeを起点とする企業理念体系”Our Philosophy”

JSW Group



Purpose（パーパス）

JSWグループはなぜ社会に存在するのか

Material Revolution®

「Material Revolution®」の力で世界を持続可能で豊かにする。

Vision（ビジョン）

JSWグループはどこを目指すのか

社会課題を解決する産業機械と新素材の開発・実装を通じて
全てのステークホルダーに貢献する。

Value Creation Process（価値創造プロセス）

Vision（ビジョン）の実現に際し、独自の提供価値をどこに置くのか

JSWグループのコア・コンピタンス

「溶かす」「混ぜる」「固める」技術 ✚ 「機械要素技術」「精密制御技術」

これらのコア・コンピタンスをより一層磨き、社会課題を解決する産業機械と新素材を開発・実装する「Value Creation Process（価値創造プロセス）」により、社会価値の創出と持続的な企業価値の向上を同時に実現していきます。

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

JSW 日本製鋼所

© The Japan Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.